

区 分	専門応用科目ー 商品企画・販売デザイン科目	担当教員	谷口重徳・相田美穂			
授業科目	ファッション&クラフトデザイン実習				授業形態	
英 訳	Fashion and Craft Design				実習	
配当年次	1 年次 前期	必選別	選択	単位数	1 単位	
<b>【授業の目的】</b> デザインについての基本的な視点を養うために、生活に必要な身の回りの品々について変化していくものと変わらないものについて理解を深めます。						
<b>【授業の到達目標】</b> (1)生活用品や衣服などデザインの移り変わりや流行を調べるために必要なポイントを修得します。 (2)生活に必要な「器うつわ」のデザインを陶芸の技法で制作します。						
<b>【授業の概要】</b> この授業は実習形式でおこないます。アクティブラーニングの要素を取り入れ、グループでの討議と発表をおこないます。また、陶芸の技法を用い、クラフト作品の制作を体験します。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> ノートやプリントを整理し、課題を確実にこなしてください。 実習の課題は必ず提出してください。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 全体オリエンテーション 第 2回 ファッション編のガイダンス 第 3回 ファッションのメカニズム 第 4回 パーソナリティとファッション 第 5回 現代のファッションについて考える① 第 6回 現代のファッションについて考える② 第 7回 現代のファッションについて考える③ 第 8回 ファッション編のまとめ 第 9回 クラフト編のガイダンス素材に慣れる 第10回 器の成型① ～手びねり～ 第11回 器の成型② ～削り・仕上げ～ 第12回 器の成型③ ～紐積み～ 第13回 器の形成④ ～たたら～ 第14回 施釉・着色 第15回 クラフト編のまとめ						
<b>【テキスト】</b> とくに定めません。						
<b>【参考書・参考資料等】</b> 授業の中で随時指示します。						
<b>【成績評価の方法等】</b> 課題提出物の合計 (80%) と討議、制作への貢献度 (20%) から評価します。						
<b>【履修要件等】</b> 設備の関係で30名を上限とします。希望者が多数の場合は抽選をおこないます。本授業は情報デザイン学科生を優先します。						

区 分	商品企画・販売デザイン科目	担当教員	穴迫 隆宏			
授業科目	パッケージデザイン					授業形態
英 訳	Package Design					単独
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の目的】</b> コンビニに並ぶほぼ全ての商品は、どのような商品なのか伝える情報性と商品を保護する機能性を持っています。パッケージデザインでは、保護、運搬、情報を意識しながら企画、制作、プレゼン能力を習得する。						
<b>【授業の到達目標】</b> パッケージデザインの基本概念を理解し、視覚デザインの企画、制作、プレゼン能力を習得する。						
<b>【授業の概要】</b> パッケージデザイン制作では形状、素材、加工方法を考えながらオリジナル作品の制作を行い、企画立案に必要な発想力の向上と、情報を確実に伝える表現力の習得を目指す。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 日頃から制作者の目を持ち、身のまわりの物や商品を見ておこう。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 オリエンテーション「パッケージデザイン」とは(素材、形などの調査) 第 2回 調査報告プレゼンテーション 第 3回 情報を伝えるパッケージデザイン制作1(調査、企画、アイデアスケッチ) 第 4回 情報を伝えるパッケージデザイン制作2 デザイン制作 第 5回 情報を伝えるパッケージデザイン制作3 デザイン制作 第 7回 包装紙のデザイン制作1(調査、企画、アイデアスケッチ) 第 8回 包装紙のデザイン制作2 デザイン制作 第 9回 包装紙のデザイン制作3 デザイン制作 第10回 紙で作るパッケージデザイン制作1(調査、企画、アイデアスケッチ) 第11回 紙で作るパッケージデザイン制作2 展開図の制作 第12回 紙で作るパッケージデザイン制作3 デザイン制作 第14回 紙で作るパッケージデザイン制作4 デザイン制作 第15回 プレゼンテーションと講評						
<b>【テキスト】</b> 担当者が作成した教材をスクリーンに表示する。						
<b>【参考書・参考資料等】</b>						
<b>【成績評価の方法等】</b> 授業中の課題(70%)、プレゼンテーション(30%)で評価する。						
<b>【履修要件等】</b>						

区 分	専門応用科目－ 商品企画・販売デザイン科目	担当教員	遠藤 麻里		
授業科目	生活デザイン			授業形態	
英 訳	Life Design			単独	
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> 身の回りのデザインを観察・考察し、新しいデザインを製作することより、デザインの基礎知識を学ぶことを目的とする。					
<b>【授業の到達目標】</b> 観察の重要性が理解できる。 身近なデザインの基本が理解できる。 制作した成果物のデザインのコンセプトを説明できる。					
<b>【授業の概要】</b> デザインの基礎知識を、観察や制作を通して学ぶ。現状観察調査、問題への着目とアイデア、コンセプトの立案とプロトタイプ作成、デザイン制作と評価という一連のデザインプロセスを体験し、デザイン制作の知識と技術を修得する。またグループでの制作を通してプロジェクト遂行の基礎知識を得る。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 課題制作の準備を適宜おこなうこと。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 生活デザインの基本 第 3 回 デザインプロセスと観察 第 4 回 観察とデザイン 第 5 回 観察からのアイデア発想 第 6 回 課題の抽出とコンセプトの立案 第 7 回 プロトタイプの制作 第 8 回 プロトタイプを用いた評価 第 9 回 デザイン課題の説明 第10回 デザイン課題の制作1 第11回 デザイン課題の制作2 第12回 デザイン課題の制作3 第13回 デザインの修正 第14回 プレゼンテーション資料の作成 第15回 プレゼンテーションと講評					
<b>【テキスト】</b> なし					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜資料を配布する。					
<b>【成績評価の方法等】</b> デザイン課題 (60%)、プレゼンテーションの内容 (40%)					
<b>【履修要件等】</b> デザイン系科目を受講していることが望ましい。					

区 分	専門応用科目ー 商品企画・販売デザイン科目	担当教員	及川 久男		
授業科目	広告・ブランドデザイン				授業形態
英 訳	Advertising Design				単独
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> 広告を取り巻く背景や環境、広告の種類や媒体を学び、広告デザインについて理解を深める。					
<b>【授業の到達目標】</b> 得た知識を活かし、デザインとしてまとめることを目標とする。					
<b>【授業の概要】</b> 広告の種類や目的、媒体等を具体的に学ぶ。さらに事例調査、施主の要望とターゲットとなるユーザを踏まえて一連のデザインプロセスを体験する。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。					
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 広告の歴史 第 3回 広告の種類と目的 第 4回 広告と媒体 第 5回 広告と企業 第 6回 参考事例の研究 1 第 7回 参考事例の研究 2 第 8回 デザイン制作1 ユーザリサーチ 第 9回 デザイン制作2 プランニングとアイデアスケッチ 第10回 デザイン制作3 コンテンツの制作 1 第11回 デザイン制作4 コンテンツの制作 2 第12回 デザイン制作5 コンテンツの制作 3 第13回 デザイン制作6 コンテンツの制作 4 第14回 プレゼンテーション 第15回 まとめ					
<b>【テキスト】</b> 担当者が作成した教材をスクリーンに表示する。					
<b>【参考書・参考資料等】</b>					
<b>【成績評価の方法等】</b> レポート(50%)、授業中の課題(50%)で評価する。					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	専門応用科目ー 商品企画・販売デザイン科目	担当教員	遠藤 麻里		
授業科目	ディスプレイデザイン			授業形態	
英 訳	Display Design			単独	
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> ディスプレイとは、展示、表示、掲示など、視覚的に物を見せることである。本講義では、人間の身体性や感性と関連したデザイン事例を紹介し、ディスプレイデザインの意味と方法を考えることを目的とする。					
<b>【授業の到達目標】</b> 得た知識を活かし、プレゼンテーションとしてまとめることができる。					
<b>【授業の概要】</b> ディスプレイデザインについて、平面、空間、物体などのデザイン事例を紹介しながら、人間と情報を繋ぐデザインの方法を探る。前半で事例を紹介した後、デザインを企画しプレゼンテーションとしてまとめる。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をよく理解しておくこと。デザイン事例について、日常から意識して観察すること。					
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス 第 2回 平面のディスプレイデザイン1 第 3回 平面のディスプレイデザイン2 第 4回 物体のディスプレイデザイン1 第 5回 物体のディスプレイデザイン2 第 6回 物体のディスプレイデザイン3 第 7回 空間のディスプレイデザイン1 第 8回 空間のディスプレイデザイン2 第 9回 空間のディスプレイデザイン3 第10回 視覚化されないデザイン 第11回 デザイン企画1 第12回 デザイン企画2 第13回 デザイン企画3 第14回 プレゼンテーション 第15回 講評とまとめ					
<b>【テキスト】</b> なし					
<b>【参考書・参考資料等】</b> 適宜資料を配布する					
<b>【成績評価の方法等】</b> レポート(50%)、授業中の課題(50%)で評価する。					
<b>【履修要件等】</b>					

区 分	専門応用科目ー 商品企画・販売デザイン科目	担当教員	木原 一郎		
授業科目	インテリア・コーディネート			授業形態	
英 訳	Interior Coordination			単独	
配当年次	3年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の目的】</b> 住む人やお客様にとって快適な住空間・店舗空間を作るために適切な提案・助言を行なうインテリアコーディネーターに必要な、インテリア（家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等）に関する知識を教えます。また、物件調査や計画を通して、インテリアデザインへの思想を深めます。					
<b>【授業の到達目標】</b> インテリアコーディネーターの資格取得に向けた基礎知識や基礎技術、思想を得ることができます。 インテリアコーディネーターに必要な総合的な判断力・提案力の基礎を得ることができます。					
<b>【授業の概要】</b> 私たちの住まいや店舗空間をより心地のよいものにするインテリアコーディネーターの仕事を、インテリア産業協会が行うインテリアコーディネーター試験で必要とされる知識に沿って講義方式の授業を行う。					
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 日常からインテリアに関する疑問や感想は整理しておく事。 講義時間内に終わらなかった作業は提出期限までに各自作業をすすめておく事。 講義で配布する資料は整理し、各自復習し理解する事。					
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 身体スケール：寸法 第 3 回 身体スケール：家具・照明 第 4 回 身体スケール：素材・計画 第 5 回 身体スケール：計画・発表・まとめ 第 6 回 住環境：表現基礎技術：スケッチ 第 7 回 住環境：表現基礎技術：各種図面 第 8 回 住環境：寸法、配置、照明、設備：提案 第 9 回 住環境：まとめ 第10回 店舗空間・公共空間：事例紹介・デザイン分析：色彩 第11回 店舗空間・公共空間：事例紹介・デザイン分析：サイン計画 第12回 店舗空間・公共空間：計画・表現1 第13回 店舗空間・公共空間：計画・表現2 第14回 店舗空間・公共空間：計画・表現3 第15回 店舗空間・公共空間：最終発表・まとめ					
<b>【テキスト】</b> 適宜資料を配布します。					
<b>【参考書・参考資料等】</b> インテリアコーディネーターハンドブック＜技術編・販売編＞					
<b>【成績評価の方法等】</b> 最終発表(40%)、まとめ時小テスト(45%)、デザイン分析レポート(15%)					

**【履修要件等】**

インテリアコーディネーター資格試験の予備知識だけでなく、それぞれの思考や思想も深める講義です。各自の身の回りですぐに応用できる講義です。